

No.124

公民館だより

平成17年6月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

「もったいない」

由良地区公民館館長 飯澤登志朗

昨年のノーベル平和賞を受賞されたケニア副環境相ワンガリ・マタイさんが毎日新聞社の招きで来日された際、日本語の「もったいない」という言葉に感激されたと報じられています。

京都議定書発効記念行事で行った基調講演で、『「もったいない」という言葉が非常にわかりやすいと思えました。三つのR。リデュース、リユース、リサイクルです。ものを作りすぎたり、再利用できるものを捨てたり、再活用することを忘れたりすることを「もったいない」と表現

する日本人の知恵に感銘しました。この言葉を世界に発していきたくと思います。』と発言されています。

四月二十九日に由良岳登山に参加された方は多くの倒木に驚かれました。

昨年十月の台風二十三号により被害を受けたもので、登山道を確認するため森林組合に依頼して切断除去された倒木です。

植林してから今日まで多くの人たちの手によって育てられたスギやヒノキの大木ですが利活用する方法はないのでしょうか。

林業は全国的に行き詰まり、すぐにも市場へ運べる林道脇の間伐材でも採算がとれないとして放置されていたり、過疎化・高齢化や輸入材などに押されて多くの山が荒れているとのことです。

アルミの弁当箱のふたを開けて、ふたに付いた飯粒の一粒一粒を箸で摘んで口に運んだ記憶をお持ちの方は多いと思います。「もったいない」と幼い頃から自然に教えられていたのです。

現在は飽食の時代といわれ、ファミリールレストランの定食でも食べ切れない量の食べ物があります。

またスーパーやコンビニではすぐに食べられるものが手に入りますが賞味期間が過ぎれば生ゴミとなります。

食糧自給率が先進国でも異例の低さといわれる今日、弁当箱のふたについた飯粒を丁寧に摘んだり、食べ残した料理を持ち帰る様子は今はあまり見かけま

せん。

エネルギー資源が枯渇すると報じられても、車社会や電化された生活の無駄は見逃されやすいものです。

小泉首相が提唱する夏のノーネクタイ、ノー上着がどれだけ定着するのでしょうか。

地球温暖化防止のために職場の冷房温度を上げ、省エネにつなげてもらおうとの狙いですが、職場に限らず家庭でも一度冷房を始めると止められません。

快適な生活環境を求めると、無駄を無くし効果的に生活する。そのバランスの軸をどこに置くかによって変化が現れるのでしよう。

バブル期には、消費は美德とした時代もありましたが、物を大切にしている心はいつの時代でも変わりません。

物も心も、もち論命も大切にしたい。今や国際語にもなった「もったいない」の精神を多くの人たちで共有したいと思えます。

平成十七年度
由良地区公民館役員名簿 (順不同・敬称略)

主事 磯田 充亮

公民館主事 磯田 充亮

【運営審議会委員】

由良小学校校長	倉野 英明
由良自治連合会長	足立 明
脇自治会長	有田 吉治
宮本自治会長	枝川 隆亮
浜野路自治会長	中西 忍
港自治会長	三島 安夫
下石浦自治会長	野村 一雄
上石浦自治会長	野村 孝行
市議会議員	大森 秀朗
前公民館長	酒田 治
学識経験者	小室 二三子
由良幼小学校PTA会長	山田 忠雄
栗田中学校PTA副会長	大森 純孝
婦人会長	瀬田 直子
松寿会会長	熊田 良雄
子供連絡協議会長	中西 利一
公民館館長	飯澤 登志朗

【分館長】

脇分館長	松林 富次雄
宮本分館長	枅田 達是
浜野路分館長	有本 敬
港分館長	山田 正明
下石浦分館長	岸田 幸夫
上石浦分館長	岸田 秀樹

【幹事】

(文化部)部長	中西 衛
副部長	田中 順子
松本 弘・亀井 正一	
舛井 満夫・守本 純子	
岸田 国彦・中西 正直	
市場 正治・山田 浩昭	
野村 馨・山下 正貴	
井野 和子・有本 仁美	

(体育部)部長 中尾 満久

副部長 千坂 幸雄

副部長 藤本 早苗

岡本 康一・松本 清

岡本 輝子・白矢 太治

山本 隆教・中西 一成

牛田 洋美・矢谷 浩

中西 一就・濱野 美香

千坂 千恵子・岸田 清

山下 祥子・岸田 格

瀬田 直子・山田 悦子

(体育部講師) 森田 美砂子

平成十七年度事業計画

(文化部)

○盆踊り大会 (子供地藏盆) 八月二十一日

○文化祭 (婦人会協賛) 十一月三日

○四部対抗囲碁大会 一月二十二日

○自治学級 二月五日

○生涯学習 (婦人会共催) 二月二十六日

○公民館だより(五・十・二月) 年三回

○由良歴史年表編纂事業 周年

(体育部)

○由良岳登山 (第39回:雨天の場合五月三日) 四月二十九日

○四部対抗バレーボール大会 六月十九日

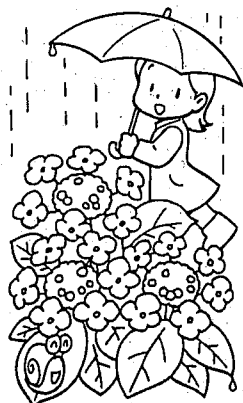
○四部対抗ソフトボール大会 八月十四日

○由良地区運動会 九月四日

○歩こう会 十月十六日

○子どものびのび体験活動事業 (子ども会連絡協議会共催)

子ども料理教室他



行事報告

主 事 磯 田 充 亮

◎二月十三日(日) 自治学級

由良自治連合会長足立明氏及び宮津市議会議員大森秀朗氏を講師として開催しました。

- 一、下水道処理について
 - 二、農道、市道改修等について
 - 三、診療所建設について
 - 四、台風二十三号被害報告と奉仕援助活動について
 - 五、体験実習館の休止について
 - 六、その他宮津市、京都府への要望事項
- 大森市議会議員から
- 一、合併問題について
 - 二、台風二十三号の被害に対する補正予算について
 - 三、下水道処理施設について
 - 四、京都交通の運行について

- 五、市制五十周年記念行事の結果について
- 六、その他市議会報告

以上について細部に亙り説明がありその後質疑応答に入り、特に、四方医師の後継者と診療所建設、台風二十三号の被害に対する補償問題等、活発な意見があり、有意義な会となりました。

◎二月二十日(日)

生涯学習講座

はまなす苑介護支援専門員、

小丸京子先生により

「高齢化社会の中で介護について思うこと」と題して講演をいただきました。

内容を簡記します。

「介護は幅の広いもの、認知症

の人を在宅で介護する家庭は大変である。

施設介護は多くの人との共同生活であり人間関係を保ちながら楽しくなければならぬ。

介護保険制度により、福祉サービスを権利として利用出来るようになった。

介護支援専門員の仕事は、在宅介護の相談を主な仕事として

いる。はまなす苑では介護計画に基づきデイサービスを実施している。

介護の大切さを認識する良い機会でした。

◎四月二十九日(金)

由良岳登山

第三十九回由良岳登山を実施しました。

今年、昨年十月の台風二十

三号の影響で由良岳中腹にある官公林で倒木、土砂崩れ等があり登山道が寸断され、余儀無く

中止になるところでしたが、毎年四月二十九日「緑の日」に行

う伝統ある由良岳登山をぜひ実行してほしいとの多数の要望が

あり、官公林を管理している森林組合、毎年登山道の整備をお世話になっている由良観光協会

の皆様に整備をお願いしたところ、心よく受けていただき、当日までに登山道が整備され実施

することができました。(写真) 当日は晴天に恵まれ、一六〇名余りの参加者がありました。

例年、登山道から見られる、コブシ、モクレン、山ざくら等の花はあまり見られません、

若葉が生い茂りかえって新鮮な感じがしました。

山頂は刈りとられた広場で、親子、友達等が晴天の下遠くの

海、山を眺めながら弁当を拡げるもの会話をする風景が見られました。

登山口では下山した人達に由良小学校の児童が「登山証明書」の手渡しを手伝うほほえましい



光景が見受けられました。
舞鶴から来られた七十二歳の男性から「初めて登ったが、よい山でした。又、来ます。」との感想がありました。

最後尾に下山した小学生のA君が先生と一緒に登山口に着了いた時、附近に居た者からあたたかい拍手と「よくやった。」との掛け声があり、A君は恥ずかしそうな顔を見せていました。

最後になりましたが、皆様の御協力により無事終了しました。ありがとうございました。ありがとうございました。

就任にあたって

主事 磯田 充亮

このたび、前主事枝川さんが宮本自治会長に就任されたことで、後任として由良地区公民館の仕事をさせていただくことになりました。

栗田中学校卒業後大阪へ行き、二年前定年退職し念願の由良に定住することができました。

退職後は由良で前職を生かした地域に密着した奉仕活動ができればと思っていましたところ、突然のお話で大役を受けることになりました。

誠に非力極まる私ですが、皆様の温かいご指導、ご協力を賜りながら、丹後由良の文化を守り、住み良い由良地区をめざし頑張りたいと考えております。どうかよろしくご支援くださいます様お願いいたします、新任のご挨拶いたします。

公民館主事を辞するにあたり

前公民館主事

枝川 隆亮

このたび公民館主事を退任させていただくこととなりました。

関係諸団体の皆様がたより暖かいご支援、ご協力をいただき四年間の任期を過ごす事が出来ました。

この間皆様のお力添えに対しまして、改めて厚くお礼を申し上げます。

今後の由良地区公民館の益々のご発展をお祈りいたします。



人権標語

平成16年度人権標語入選作品

大切に 一つの命 たからもの

由良小学校 高柳 久美子

教育について

由良小学校長 倉野英明

桜もちらほら咲き始めた四月

七日の入学式には、五名のかわ

いらしい一年生が校門をくぐり

ました。毎年のことですが、こ

の時ばかりは、さあ新しい年度

が始まった。心新たにがんばる

ぞという思いがわき上がってき

ます。児童六十四名、教職員十

三名の小規模校ですが、小さく

てもキラリと光る学校を目指し

て取組を進めていきます。

学校では、本年度もこんな児

童や学校にしていこうという目

標を定め、次のような経営方針

を掲げています。

一 教育目標

自然と文化に恵まれた地域を

愛する心を基盤としながら、児

童一人一人の可能性を生かし、

自主性と豊かな人間性に満ちた、

心身共に健全な児童の育成に努

める。

二 めざす児童像

「自ら学び、心豊かで、たく

ましく生きる児童の育成」

(一) よく考える子

(二) 思いやりのある子

(三) 元気に行動する子

(四) 最後までがんばる子

この目標に少しでも近づける

よう教職員で共通理解を図り、

勉学はもとよりひとつひとつの

活動や取組のねらいを明らかに

し計画的に行っていききたいと思っ

ています。

今、学校では、五月の連休明

けから、春の大運動会に向け、

チーム集会を開き、自分たちの

組が優勝するため、スローガン

を決め、毎日練習に励んでいま

す。

毎日、朝学校に来ると、放送

の合図で浜の子マラソンが始ま
ります。仲良く連れ立って走る
組。黙々と自分で目標を決めて、
周回する子。声をかけ合いわい
わい言いながら走る子等活気に
あふれる元気でにぎやかな姿が
見られほほえましくなります。

授業時間ともなると、集団演

技の練習に高学年は、扇子と錫

杖を持ってグラウンドに駆け出し

て、少しおぼつかない動きでは

あるが躍動感あふれる踊りに熱

心に取り組んでいますし、低学

年は、体育の基本の運動を取り

入れた演技に一つ一つの技をこ

なしながら全体としての動きを

作るようがんばって練習をして

います。見ていますと、どの子

も先生の言われることにまじめ

に取り組む姿勢が見られ、一人

として手を抜いたり、怠けたり、

いい加減な気持ちで臨んでいた

りする子もなく、由良の子のよ

き伝統が息づいていることが実

感できます。

限られた時間の中での練習で

はありますが、浜っ子由良の集
団のまとまりと一生懸命がなば
る姿を、運動会当日には見せて
くれることと思えます。この脈々
と受け継がれてきた良き伝統は、
ひとえに保護者・地域社会の皆
様の学校教育に対する惜しみな
いご支援ご協力の賜であろうと
思います。

さて、複雑な現代社会の中に

おかれたこれからの学校は、保

護者や地域社会の皆様から寄せ

られた意見や提言を教育活動に

生かしていくことやそれぞれの

役割を再度見直し子どもたちと

関わり教育していくことがいっ

そう求められています。その一

環として宮津市の学校では、平

成十三年度に学校・家庭・地域

社会がより関係を深め、よりよ

い教育の実現を目指す。という

趣旨の下、学校評議員制度が発

足しました。由良小・幼稚園で

は、年二回、四名の委員さんと

会合を持っています。

幼稚園・小学校の教育活動や

園児・児童の様子、学校の教育課題、評価をしていただいた結果等々について説明し、意見や理解を求めたり、要望を聞いたりしていますし、それぞれの立場から得た教育に関する情報についても意見交流を行っています。

このように、学校と保護者、地域社会の皆様が、由良の持つ良さを生かしながら一体となつて共に育てる取組を推進することができたなら、さらに教育目標に近づくことができるものと確信をしています。

四月二十九日の恒例になつている公民館行事の由良ヶ岳登山も、昨年の台風二十三号により倒木や崖崩れ等により道が塞がれたりして実施できるか心配されましたが、公民館の方々や地域の皆さんの精力的な復旧活動により行うことができました。私も家内と参加しましたが、多くの地域の方たちや児童たちが登っていました。中には親に手

を引かれ幼稚園児の姿もありました。由良の伝統行事を守り育てようとする思いがひしひしと伝わってきました。頂上に着いて、岩に腰をおろしながら周りを見ると眼下に由良川の大河が広がり、海に面して由良の家並みが広がっていました。その景色を眺ながら校長として、地域の皆様の協力・支援を得ながら特色ある教育を展開し、活気に満ちた信頼される学校づくりをすすめていこうと改めて思いました。



五月が過ぎてこれから大事

栗田中学校校長 檀野 一 義

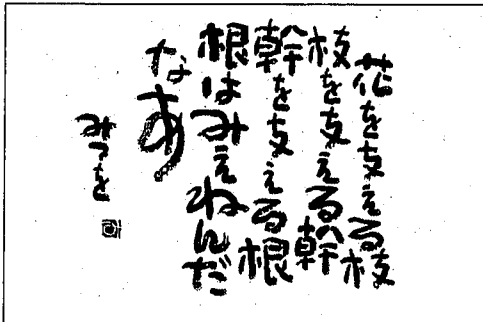
五月にはいると、大人も子どももさわやかな季節に呼応するように気持ち充満してきます。木々の緑が太陽を浴びてまぶしいばかりの鮮やかな色を放ち、草花の色とりどりの美しさに目を奪われます。また、五月という、こうした自然の美しさと調和するように、河原いっぱいにたなびく鯉のぼりや季節感を感じさせる食べ物である柏餅などが代表的な物として頭に浮かんできます。

美しさ・新鮮さ・活気が感じられるこの季節、学校に目を向けると、学校においても様々な動きに活気が出てきます。生徒たちも学校生活になれ、新しい学年の始まりの中で、友達作りも広がり、そして少しずつ深まりを見せ、そうした子ども達の生

活に呼応するように学校の行事もさまざまなものを展開しています。その中で最大の行事が修学旅行と校外学習でした。三年生の修学旅行は、五月十八日から三日間、東京方面に全員参加で元氣よく行ってきました。友達関係の深まりや集団生活の学習といった面で大きな成果を残せたと思っています。友達との意見の衝突、そしてそれを乗り越え、互いの考えの良さを認め、互いを理解し合う中で、思いやりや優しさといった人間性、助けあう心や責任感といった社会性など多くを身に付けてくれたのだと思っています。単なる良き思い出にしまわうのではなく、身に付けた力を今後の学校生活に活かしてくれることを願っています。

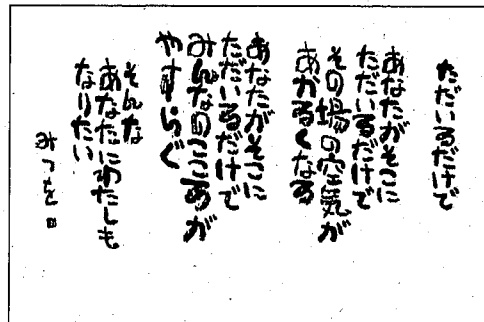
六月に入ると、学校の活動も更に本格的になり、次から次へとさまざまな活動が続きます。学習と進路実現、部活動や陸上、よりよい学級づくり、体育祭の取組などで目まぐるしいような毎日になります。一つ一つの取組に目標を持って、意欲的に取り組めるよう指導していきたいと思っています。

話は変わりますが、修学旅行で「相田みつを美術館」に行ってきました。短く平易な言葉で表現されている詩を自筆の書で表現した一つ一つの作品は、誰でもが共感できたり納得できたり、励まされたりする素晴らしい作品でした。書籍では見ていたのですが、やはり本物は違います。私も心動かされた一人でしたが、やや意外に思ったのは、大勢の生徒がそれらの作品を本当に真面目な態度で鑑賞していたことが、私の心を充実感で満たしてくれました。いくつか紹介させていただきます。(著作権



相田みつを著「にんげんだもの」(文化出版局刊)より

© 相田みつを美術館 <http://www.mitsuo.co.jp/>



相田みつを著「日めくり ひとりしずか」より

© 相田みつを美術館 <http://www.mitsuo.co.jp/>

の許可は了解済です)
 本校では、昨年度の反省を活かし、学校教育目標である「豊かな心と健康な体、確かな学力を身に付けた生徒の育成」を目

指して、教職員一同力を合わせて頑張っています。地域の皆様
 の御理解・御支援をどうかよろしくお願いいたします。

シニアスポーツのご案内

松寿会会長 熊田良雄

全世界の人口は増加の傾向にあります。その中で日本の国は世界一の長寿国となりました。平成二十五年頃には日本の全人口の四分の一は六十五才以上となり、まさに高齢化社会が形成され大問題が生じてきます。

け実施することが、最大の急務であると考えております。これらの人達が永年培ってきた知識や経験、技能を生かし、地域社会の一員としての役割を担っていくことが期待されています。

これの対策に政府はいろいろと考慮しておりますが、これと言った妙案はありません。宮津市も近年人口は減少し、特に若年層は少子化の影響もあって急激に減りましたが、逆に高齢年齢層は増加しております。私は今後更に増加し続ける高齢者の人達を有効に活用する手法を見つ

どんな仕事をするにも先ずは健康が大事です。健康はお金では買えません。一人一人が健康で楽しく残りの人生を送ることができるよう、松寿会は次のシニアスポーツを考えました。

第一番目は卓球です。卓球台を囲んでお互いに身体をリラックスしましょう。

日時は毎月第二と第四土曜日

の午前中です。雨天の場合は午後となりません。

第二番目はペタンクです。これまで松寿会の会員は一部練習していますが、この輪を大きく拡げて誰でも参加して下さい。日時は毎月第二と第四土曜日の午後一時からです。

第三番目はバドミントンと輪投です。道具は少しですが数人

由良がたけ登山

「おはよう。」

いとこの夏末がやって来ました。四月二十九日今日は、緑の日。由良がたけ登山の日。ぼくは、前日におかしを買いました。

「じゃがりこ」と「ウイダー」というゼリーっぽい物と、「ちびギャラリー」と「アポロ」を買いました。ちびギャラリーには種類が、全部で八種類あります。どれもおもしろい詩が書いてあるフィギアが入っています。そして、中にはやさしいわんこと

はできません。日時は毎月第二と第四土曜日の午後で小学校の体育館を使用します。

まだこの他に考えておりますが、このシニアスポーツの輪を少しずつ拡げて、楽しい日々を送りましょう。どうか皆様ご近所の高齢者をお誘いの上、多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

五年 日 比 昌 成

いうフィギアが入っていました。その夜ぼくは、ワクワクしました。汗をかいて、休けいをしなから登って頂上に着いた自分が目につりました。そしてねました。

当日ぼくは、夏末とおじいちゃんとお母さんで行きました。まず最初にじゅんび体そうをして、おかしをもらいました。いよいよ登る時が来ました。ぼくと夏末は手をつないで、歩きました。山の中に入っていくと、

坂道や階段みたいなの所が、いっぱいありました。いろんな葉っぱもありました。と中、夏末が「つかれた。」

とか、

「もう帰りたい。」

と、言い始めました。ぼくは、最後まで登れるかなと不安になりました。お母さんが来て、荷物を持ってくれました。時々ウイダーを飲みながら登って行く。と水飲み場のかん板がありました。おじいちゃんが行って後から行こうとしたら、おじいちゃんがこう言いました。

「水が無いでー。」

ぼくは、『え』と思ったと同じに行かなくて良かったというきもちになりました。

「もう少しで着くで。」

と、お母さんが言ったとたんに走り出しました。ぼくは、と中でおなかがいなくなつたので、あまり速くは、登れなかつたけど、どんどん登って行きました。ぼく達はやっとの思いで、頂上

にたどり着きました。ぼくは、おなかがいなかったたので、おべん当は食べませんでした。景しきはきれいでした。下りる時は苦戦しました。そしてぼくは、18番目に下りました。おなかがいなくなつたけど風景はきれいだったし、達成感があったので、いい思い出になりました。



つかれたけど楽しかった山登り

五年 吉元里香子

今日は、4月29日みどりの日なので由良がたけと山がありました。

わたしがいっしょに登った人は、みさきちゃんさえちちゃんあやかちゃんあんなちゃんです。

わたしたちは、体そうをして、歩いて由良がたけと山口まで行きました。

あるいた順は、あんなちゃんあやかちゃんわたしみさきちゃんさえちちゃんという順です。

今年は、天気良くて、土がカラカラにかわいていて、くつがすべりそうで気を付けて登らなければならなかったから大変でした。

最初は、みんなすぐくはやかっただけど、だんだんゆっくりになってきたころ2合目のかんばんの所につきました。

はじめはぬかす人がいっぱいいたけど少なくなってきた、前

やうらにいる人も少なくなってきました。

またどん登っていくと、水のみ場があつてわたしが「行ってみる」と言ったらあやかちゃん

「どうする」と言つて。みさきちゃんが

「どっちでもいいで」と言つたのでわたしが

「じゃあ帰りによる」と言つてまたどんどんのぼつていきました。

少したつたら、木があまりない所があつて

「きれいやなあ」とか言いながらのぼつていました。

次は林みたいになつていいる所があつて、わたしは一ばんそこがえらかったです。

今年はきよ年よりぜんまいを多く見たので、それはなんですかと思ひました。

少し歩くと、いっぱい水があつて、もつてきていたペットボトルに入れようと思つていたけど、少ししか出ていなかったから、あまり入れませんでした。

それでわたしは「帰りには出るとかもしれないから帰りにまたきてみよ」と思ひました。

また登っていくと、右と左が分かれていて、右はあまのはし立が見える方で左が由良が見える方でした。

わたしたちは、左の方をさきに行きました。そしてちよう上についたら、石がつんである所に石をのせて、ごはんを食べていたらちなちゃんが、

「いっしょに食べよ」と言つた

のでいっしょに食べました。

そしておやつをみんな分けて食べて、天のはし立のほうに行きました。そしてみんなで石の上に乗つて「きれいやなあ」とか言いながら見ていました。

そしておりるのは走つて帰りました。

そしていっばい水の所にきてみると、行きより少ししか出ていませんでした。

それでやめて、水のみ場まで走つていきました。水のみ場で水をのんで走つておりました。おりたら、はんこのおしてあるカードをもらつて帰りました。またらい年も登りたいです。

初めての由良岳登山

五年 由利美咲

年生になつてお母さんたちのきよかをもつたからです。

今まではお母さんたちに、「大変やで。」

「一回お母さんらあも登つたこ

とあるけど、下りたあとあたまがいたかった。」

とか言われていたからです。でも、今年登ってみると、とても気持ちがよく、けしきもとてもよかったです。わたしは、

「ちよう上で食べるご飯はおいしいなあ。」と思っていました。それにわたしは、

「お母さんらあ、えらいし頭がいたかったとか言っとったけど、わたしはそのまったくぎやくの気持ちだな。」と思いました。

いっしょに登った友達とは、おやつ交かんもできるし、お弁当のおかず交かんもできるので、とてもおもしろい行事だなあとも思いました。

ちよう上のけしきで、わたしがきれいだなと思ったところは、鉄橋の所と、学校のグラウンドです。なぜかというと、鉄橋は、電車が通る橋が一本のぼうみたいで、はりみたいに細くておもしろかったからです。もう一つのグラウンドの方は、上から見

ると広がったからです。他に見えたのは、海や田んぼ、家などそういうものがきれいでした。

そして天橋立が見える所も行きました。そこは、けっこうきれいでした。岩の上に乗れけしきを見る所でした。わたしは、「天橋立って、なんであんな形なんだろう?。」と思っていました。

そして、もつと上へ行く所もあったけど行きませんでした。

そして下りることになり、下りる時は、登る時よりえらくなかつたけど、とてもこわかつたです。下りる時はお茶がなかつたので、とてもものがかわきました。水を飲む所があり、そこで水を飲みました。自分で飲む用と家へお土産用の二つ分をくみました。そして下りていくと、由良岳登山が終わりました。わたしは五十一番でした。つかれたけどとてもおもしろかつたです。初めての由良岳登山、登頂できてよかつたです。また登ってみたいですよ。

久しぶりの山登り

大阪市立立葉小学校五年 柘 田 夏 丸

ぼくは由良小学校五年生になる前に大阪へ転校しました。だから、山登りだけでなく、由良に帰ることを楽しみにしていました。

4月29日山登り当日となり、ひさしぶりにみんなと顔を見てすこしはずかしかつた。でも、うれしかつたです。

初めにラジオ体そうをして、そのあとおかしをもらって校ていを出ました。

ぼくは初めから先頭グループにいました。

お母さんはうしろのほうにいたけどしばらくしてからぼくの近くまで来ました。いっしょに登った高校生のお兄さんはぼくを走ってぬかしました。ぼくが登って行くとお兄さんはつかれてやすんでいました。

ぼくは登りながら、「うさぎとかめ」の話しを思い出しました。

とちゆう一ぱい水にしようと思ったが、今一番に登っていたので進むことにしました。

登りながらこんな道もあつたと思っていました。

別れ道についてもうすこしと思い少し速くなっていました。

ぼくは9時にスタートした人達では一番にちよう上につきました。お兄さんが10番でお母さんが11番でした。

みんなそろつたところでおじいちゃんが作ってくれた竹の皮の弁当を開けました、中はお母さんが作ってくれたおにぎりだけどくっついていて長いおにぎりになつていました。でもおいしかつたです。

帰りは、登りによれなかつた一ぱい水により、おじいちゃんに一ぱい水をあげようと思いと、水はぼとりぼとりとおちるていどであまりでていません

子供会に思う事

由良子供会連絡協議会会長 中西利一

でした。コップに水がたまっていたのでそれを入れました。帰っておいちゃんに水をあげたら喜んでくれました。おじいちゃんの喜ぶ顔を見ると来年も登ろうと思いました。

この度由良子供会連絡協議会の会長を務めさせて頂きます港の中西と申します。

私より適任者はたくさんいるのにと思いましたが、会則通り輪番制という事であきらめざるをえませんでした。

過去数年間の綴りを前会長の千坂さんより引き継ぎ、パラパラと目を通しますとなんと会議や行事の多いさに驚きました。

今の心境は、正直私にこの大役が務まるのかという不安と、過去諸先輩方が築き上げられた功績はすばらしい物で、これをくずしてなるものかという気合と入り混じっています。

四月の中頃、宮津市青少年後

援会連絡協議会の会議に出席したところ、これまた輪番制という事で会計監事という役になりました。

本当に運が良いのか悪いのか分かりませんが、他の役員さん、地域の皆様方の協力をいただいでこの一年がんばっていかうと思えます。

宮津市青少年後援会連絡協議会に参加して配布されたパンフレットの中に、これは京都府青少年育成協会が発行したものです。大人が変われば子どもも変わる」という題字が目につき、思わず背筋を伸ばしてしまいました。

内容といたしましては、「子供

たちの健やかな成長にとって親や大人、地域の役割と責任は重大です」と書かれていました。自分自身これまで全く思いもよらなかった言葉に遭遇し、考えさせられました。はたして私たちに何が出来るでしょうか。

子供が減り子供会活動が難しく

子供の躰は家庭から

由良幼小PTA会長 山田忠雄

由良地区の皆様には日頃より学校行事及びPTA活動に対しまして、何かとご支援ご協力を賜りましてありがとうございます。

由良地区におきましても猛スピードで少子化が進み、本年度の入学生がわずか五名という状況です。このまま少子化が進めば伝統ある由良小学校の存続が危ぶまれます。

昔から子供のことを子宝と申

い時代となってきましたが、だからこそ各地区の子供会との連携を深める事や、地域の皆様方と共に、子供にとって、もつとも身近な場所、家庭、学校、公園……をもつと心休まる「いい場所」となるような環境づくりにも役立ててほしいと思います。

しますようにわが国の現在の危機的な財政状態及び年金問題等は、少子化が改善されればほぼ解消されるはずで

そこで将来の由良地区を少数で担う宝である子供達に対しまして日常の挨拶等由良地区の一員としての礼儀等につきましてお気付きの点がございましたら、ご遠慮なく厳しくご指導下さいますようお願い申し上げます。

しかし、子供の躰は親が家庭で行うのが原則です。この当たり前のことが近年実行されていないように思われます。

親の場合は、勉強さえしてくれれば子供の我がままを許し、家の手伝いをさせず、祖父母の場合には、数少ない孫に嫌われるのを恐れ、昔のように日常の行儀作法等について口うるさく言わないように思われます。

また、世の中に目を向けましても、国の将来よりも自分達の利権を守るために老害をまき散らしている政治家達、人命よりも会社の利益を優先する大企業の社長達、中学生の女の子一人の命を助けるためにみんなを応援している最中、罪のない多数の子供達が誤爆で死亡しても責任を取らない他国の大統領など子供にとって悪い手本ばかりを見せている大人の社会です。

この何かがおかしい世の中ではありませんが、親である大人達は数少ない子供達にこの国の、

またこの由良地区の将来を託さなければなりません。

そこで、この悪い手本を生き残った教材として各家庭におかれまして子供達の教育、躰等に活用していただきたいと存じます。

また、私が日頃子供達に接する際にいつも参考にしております言葉に旧日本軍の連合艦隊司令長官を務められた山本五十六氏の言葉があります。

「やつて見せ、言つて聞かせ、誉めてやらねば人は動かじ」

まさに今こそ、この言葉の通り、世の中が忘れかけている人間として何が一番大切であるかをまず親が手本を見せ、子供の目線と言つて聞かせ、正しいことや良い事をした時には思いっきり誉めてやるのが大切ではないでしょうか。

偉そうな事を長々と申しましたが、私自身、この原稿を書きながら、我が子の躰について大いに反省している次第であります。

最後になりましたが、由良地区公民館様には、料理教室等子供達のためにいろいろな行事をお世話になりありがとうございます。

地域と共に

由良婦人会長 瀬田直子

日頃より、地域の皆様には、由良婦人会活動に多大なる御支援、御協力を賜り厚く御礼を申し上げます。平成十七年度婦人会、会長と言う大役をお受けする事となりました。何分にも、重責な任務であり、無力な私です。皆様のお力をお借りして、この一年頑張つて、行きたいと思っております。宜しくお願い申し上げます。

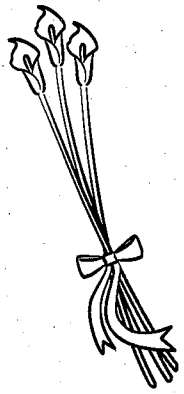
始まって見ますと、ほんとうに大変さを痛感しております。色々、公私共に忙しい毎日ではありますが、職場や家族の理解、協力のもと、健康管理をしながら、ご迷惑をかけない様、一つ

ます。また、由良地区の皆様には今後共、PTA活動に対しましてご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

一つ対応させて頂いております。

さて、時代の移り変わり、流れの中で、婦人会の在り方、考え方も、変化してきております。平成十五年度末には、臨時総会が開催され、宮津市連合婦人会とのかわり方等の問題が、出され色々な御意見が出ておりました。その事をきっかけに、活動の場、参加する回数も自粛されて少なくなつて来ている様に思います。婦人会活動は、あくまでもボランティアです。

しかし、地域の婦人として、お互いに助け合い、交流を深め、これからも活動し続けて行かなければならない大切な立場にあ



ると思っております。情報が、過多のこの時代、テレビ一つを取って見てもニュース、児童虐待、事故、地震と映画の中の一シーンの様な状況が、現実に起きて、目を疑うことが、多い日々の中、いつ我が身にふりかかるか、分からない、今日この頃ではありますが、自分の身のまわりをしつかりと見つめながら前向きに住みなれた地域で安心して暮らせる活動をお手伝いさせて頂きたいと思っております。

また各種地域の団体と連携し、協力し、ボランティアの心を大切に、集団として活動を展開して行くことが地域の活性化につながって行くものと、信じております。これからも、皆様の御指導、御協力を得まして頑張っ て行きたいと思しますので、宜しくお願い申し上げます。

追悼

「シベリアの思い出」として連載していただきました田中貞彦氏は、去る三月十四日永眠されました。享年八十才でした。

茲に謹んで哀悼の意を表します。

氏は、尼崎出身で阪神・淡路大震災で被災され、それを機に当地に移住され、松寿会幹事や自治会班長として地域とのふれあいを大切にしてこられました。

若い頃から野球やスキーを好まれ、特にスキーは講師を勤められる腕前と伺っています。

公民館活動に理解を示された田中氏のご冥福をお祈りいたします。(この(4)は生前に原稿をいただいていたので、ご遺族の了解を得て掲載しました)

シベリアの思い出 (4)

田中貞彦

炊事場も食堂も、そして吾々も大改革、これから毎日夕食には五品以上作って皆に喜んで貰おうと誓う。さあ、それからが炊事場での戦争だ。勤務は六人ずつ二十四時間勤務で千人分の調理をする。入隊前に寿司屋をしていた人。中華料理の調理師、

給細工の職人などの経験者もいてそれ等の人のアドバイスを受けながら献立を作る。献立の中でどうしても砂糖が多く必要な時には給細工職人の薄井さんにソ連の国旗やスターリンの顔の入った飴を作って糧秣係のバッグダーフに見せると「ハラシヨール

ハラシヨール」と大喜びでもっと作れと言う。砂糖があれば出来るとけしかけると倉庫から持って来いという。ここぞとばかり麻袋一袋四十キロをせしめ久し振りにぜんざいを作る。当時日本人に支給されていた食糧は一日一人当たり、黒パン三五〇瓦、穀物四五〇瓦、肉類五〇瓦、魚類一五〇瓦、野菜六百から九百瓦、砂糖十八瓦、食用油十瓦、塩三十瓦。これ等の中で魚類には当時の樺太で作られたニシンの塩漬けの樽詰めやアメリカからソ連に援助したと思われるハムの缶詰等も含まれる。今まで経験した事のない魚の三枚おろしや骨付きの肉の捌き方、特に牛の頭のさばき方は義勇隊の連中が流石に巧い。それを見様見真似でこちらも覚えていく。朝食の時に「今晚のメニュー」として画家の国延さんと寺田さんが交替で天ぷら、ぜんざい、鮭の塩焼、練の塩焼き、尾頭付き等々を絵で描いて配膳口に置いて

ておく。それを見て皆が朝食を食べながら故郷で食べた天ぷら、ぜんざいその他を思い浮かべ楽しく語り合っている。多分作業中もこの話題で持ちきりだろう。

新しい食堂が出来上がり、配膳前になると女軍医中尉マーシヤが検食に来る。今迄の雑炊の時は塩が多いとか不味いとか文句を言っていたが新しい料理を目にして「オー素晴らしい」と連呼。練の塩焼、天ぷら（かき揚げ）、ピクルス、デザートに練羊羹等約束の五品を作る。今度はマーシヤは味には文句は付けないが女医らしく炊事場の中を見廻り細かい所迄点検して俎板の裏側、流しの下迄見て掃除のやり直しを命ずる。タナキ、グリアーズナー（田中きたないぞ）でも炊事場の清潔は一番大事だから配膳終了後掃除をする。この女軍医はロシア人に似合わず小柄で仲々の別嬪さんだがヒステリックで怒ると怖い。ある時作業に出る日本人の防寒靴（カー

トンキー）の中がぬれているのをマーシヤが発見して「この仮作業に出たら足が凍傷になるから今日は作業中止」とソ連兵の作業係に伝える。作業係は一人減るとノルマに影響するので「駄目だ」と言い張る。マーシヤは途端に早口のロシア語で何か言い返すと作業係はだまってその日本人を置いて作業に出て行った。こう書いてみると捕虜の苦しみなど無いように思われるだろうが、勿論捕虜は苦しい作業や嫌な辛い事がいっぱい。そんな中でせめて辛い労働の後のひとときを、辛さを忘れる時間がせめて食事の間の二十分、三十分でもあればというのが吾々炊事班の願いでもある。このメニューが板につき出した頃から突然他部隊がウヤツカに入ってきて十日から二十日程居ては他へ転出して行く。その繰り返しが目立つようになった。どうもウヤツカの料理を食べさせる為

に政治的判断で連れて来ている様だ。それ等の部隊の中には終戦後二年以上経っているのに未だに昔の軍隊の如く早朝から点呼、宮城遙拝と号令をかけて威張っている将校も居る。我々はその様な軍隊生活はすでに忘れ去っていた。この様な部隊が将校下士官はいつ迄も威張って、初年兵や終戦直前に召集された高齢の兵隊にきつい作業を押しつけ事故死や栄養失調死の犠牲者が出るのだ。茲で当時の吾々の考えたメニューを思い出す。まに紹介して見よう。朝食は皿に山盛り出来る程度の粟か稗と、黒パン五十瓦、スープ。ロシア漬ピクルス又は焼塩鮭。昼食は黒パン三百瓦、スープ、ピクルス。夕食は主食粟飯。副食、豚汁。鮭の天ぷら。キャベツ千切りの煮もの。ピクルス（胡瓜）、デザート蒸し羊羹。の五品又はコーンスープ、ビーフステーキ。（豚か牛か馬かその時による）、練とジャガイモの炒煮、ピクルス、デザート等。その外に練を

材料にカマボコ、ロールキャベツ等々を作り約束通り毎夕食には五品を提供した。段々と皆も欲が出てきて、ニギリ寿しがたべたいと要求が出る。東京で寿し店をされていた笹原さんの指導を受けながら、ネタは練、鮭、ピクルスを使い一人三個宛三千個握る。初めての事なので終わったら掌が真つすぐに伸びない。その後はネタや衛生の問題もありこの一回で止める。又今これ等の事をやれと云われてもとても出来ないだろう。ときには炊事勤務の非番の時に、ソ連軍本部の集会所でロシア人のダンスパーティーや映画会が催されるが日本人はシャットアウトされるが、吾々は顔見知りの兵隊（時々炊事へパンや油をもらいに来る）に入れてもらう。独ソ戦の映画は見せてくれたが日ソ戦は絶対に見せてくれなかった。こうして入ソ以来二年以上炊事勤務をしている間に、ウヤツカにも民主運動の火は拡がってきた。ラ

イチハからアクチブと称する者が現れ「民主運動をもつとやれ」とけしかけるが「知らぬ顔の半兵衛」と決め込んでいたがだんだんとそうも云っておられず運動に巻き込まれてゆく。又一方で演芸活動も活発になり、ウヤツカでも各作業班で工夫をこらす。大工班でマンドリンを作り「ジント楽団」なるものが生まれたり、素人離れた女装の麗人が現れたりで皆を楽しませてくれた。又ライイチハから「新星楽団」が慰問演奏にきてくれた。その中に当時は素人だったが青木光一君もメンバーに加わっていた。作業班の中に自分等と同年代の農業経験者や満豪義勇隊出身者と若干の未経験者の集団があり、彼等から一緒に作業をやるうとさそいを受ける。全くの未経験だったがそれでもという事で永い間お世話になった炊事場から作業班に移ることになる。早速トマト、キャベツ、キュウリ、人参等の苗植えをする。こちら

は苗を見るのも初めて、作業も初めて彼等に教えられながら植えてゆく。これ等が終われば雑草刈り、畑仕事にこんなものがあるとは知らなかった。でも草を刈り水をやっている間に一日大きくなってゆくのが目に見える。これが楽しみなんだ。九月半ばになればもう収穫期だ。トマト畑でも一畝でも三百メートル位ある。籠を持って一ケづつ取っては籠に入れる。そして吾が口にも、これ程うまいものはない。以前炊事で残飯が出た理由がよくわかった。十月半ばになればジャガイモ、麦刈も終わる。これ等を収穫して袋詰にしてゆくコンバインを初めて見た。大平原での草刈。見たこともない二メートル近くもあるロシア鎌、それで前、左、右の草を体をうまく廻し刈ってゆく。初めのうちは空廻り、とても草など刈れるものではないが彼等は難なくこなし私の分まで助けしてくれる。又たのしい思い出の

一つに個人経営の集団農場、コルホーズへ収穫の手伝いに行つた事があった。夜は三、四人宛民家に泊めてもらう。夕食後、雑談の中で「日本は皆家が焼けたいらしいがお前の家はどうか」と聞かれたので「家も焼かれ親も死んだ」と云うと、「オオ可哀相に」と云ってパンや蜂蜜(貴重品)を出してもつと食えと云ってくれた。ここでも田舎の一般人は本当にお人好しだ、悪い事を云ったと後で皆と大笑い。

昭和二十三年十一月、遂にダモイの名簿が発表され私も帰国する事になった。炊事班や部隊本部の先輩達に見送られウヤツカの門を出る。「秋時雨、背にウヤツカの別れかな」

今度こそ本当のダモイだなと皆と話し乍ら列車に乗り込む。ナホトカに着いた時に先ず海が見えた。でもまだ油断が出来ない。ナホトカにはアクチブと称するソ連の番犬の様な日本人が居る。ソ連に反抗する者達を登

見するとダモイ取消し、作業隊送りをしてソ連のご機嫌を取っている者が居る。だからナホトカに居る間は静かに乗船の日を待つだけだ。十一月二十日頃遂に乗船が始まる。船名は信濃丸。まだ日本には立派な船が残っているんだなと思いつつ乗船する。

船は舞鶴に向けナホトカを出航する。船が離岸すればもう収容所へ戻される心配はない。今迄スターリン萬歳を云っていた連中も遠い昔に忘れた様な顔をしている。でも中にはそうでない連中も居る。この時期にしては波静かな航海だ。軍隊に入隊する迄、本州、北海道、北朝鮮、中国方面に船舶通信士として乗船勤務をしていた関係上、特に日本海、東支那海は懐かしく、ナホトカ出航後、朝鮮半島を右に見て南下、冬とは謂え、日本列島の濃い黒すぎる程の緑の山々を見たときの感激は六十年近く経った今でも忘れる事は出来ない。この信濃丸にも先輩や後輩

が無線通信士として勤務しているだろうから覗いて見たい気持ちもあったが諦めた。

十一月二十三日舞鶴港に入る。沖から舳で棧橋へ、やっと今度こそ本当に本土へ上陸出来た。引揚寮で身体の消毒や帰国手続等で三日間を費やす。その間千円を貰う。大学卒の月給五十円しか知らない吾々に千円は大金でも三日間の間にタバコ、菓子等で無一文になり大笑いだ。全員揃って東舞鶴駅から大阪駅へ、そこで関東、中国、九州方面へ別れる事になっていた。途中篠山駅で湯茶やフカシ芋等の接待を受けた時、昔の国防婦人会の様なお白いエプロン姿の婦人を見ると入隊当時を思い出す。帰国後、船中やダモイ列車の中で赤旗組と日の丸組との対立があったと聞いたが幸い吾々の梯団ではその様な不祥事もなく無事大阪駅へ到着する事が出来た。大阪駅で元気で再会を約し東へ、西へと別れて行った。三年に及

ぶシベリア抑留生活中、本当に多くの戦友達に助けられ、励まされ無事帰国出来た事を改めてこれ等の人々に厚く御礼申し上げます。年に一度の戦友会で元気な顔を見ると喜びを分かちあえるがやはり中には黄泉に先だたれた方もあり、もうお逢いする事も出来ない。もう一度逢いたい人の中にドイツ人。オランダ人が居る。ドイツ人捕虜約二十人が約半年間ウヤツカで作業をしていたが彼が炊事要員として炊事場へ来ていたので仲良くなり、片言のロシア語で日本の話、ドイツの話等をした思い出、その後彼等は他地区へ転出して行った。彼はハンブルグの近くの街の出身だと云っていたが、その後無事帰国しただろうか。もう彼には逢う事はないだろうか元気にいて欲しい。最後に、祖国の夢を見ながら、誰も訪れる事もないウヤツカの丘に眠る戦友達の御冥福をお祈り致します。合掌。

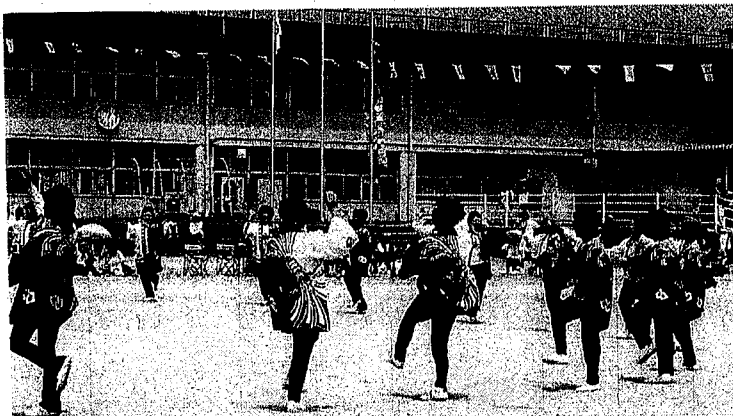
◎えいへいや踊保存会

平成十五年に有志数名程の話からスタート、地域への呼びかけで保存会が結成されました。何回か練習し、子供地藏盆や敬老会で発表。さらに平成十六年六月、宮津市制五十周年記念ふるさとまつりには市内各地区で伝承されている伝統芸能として宮津会館ステージで昔を偲ぶ優雅な踊りを披露し観客席から大きな拍手を浴びました。

このたび四方寿朗氏より多額のご好意をいただきましたので保存会会員の意見等を集約し、踊用法被を調達しました。

去る五月二十九日由良小学校運動会では小学校側のご協力をいただき初披露となりましたが、今後は機会ある毎に伝統芸能として地区の皆様とともに「えい

へいや踊」を伝承していきたいと考えています。保存会への加入とご支援をお願いいたします。



短歌



山口幸一

夕モイの悦びを 語ることなく君逝けりシベリア抑留記は未完のままに
君逝けり 一望千里の草原にいんちゅうほあ(迎春花)の咲き初む頃か
君の訃報 届きたる朝は謚かにて半藤一利の昭和史など繕きていし

(田中貞彦さんの死を悼む三首)

とよ子

病臥の悲しみふかき師のみ胸さすりつつ思う重きいのちを
「お茶したい」いまはつきりと師のみ声 弟子なるわれの想つたわりて
師のみ影彼岸へつづく細道をさみしけれども踏みしめゆかん

坂本 妙子

雨風のはげしき中に白^{わび}陀^{すけ}助が春待たず散る無念さを思ふ
病床に励ましの文くだされし師は逝きたまう睦月の空へ
いとおいしい曾孫の笑顔 悲しみのわが生に明るき^{あかし}灯となりて

大森 美智子

河津さくらのピンクに染まる並木道そぞろ歩けば少女にかえる
啓蟄に生まれて思う吾もまた虫の一種とひとり笑みおり
わが植えし庭の木々にも季は巡りそよぐ若葉を飽かず見ており

山田 よしの

さきがけて紅の陀助二つ三つ春はそこまで足音^{あしな}しのばせ
山野辺の緑をわけてひた走る客二十人の昼の宮津線
御守りが乙女の腰に拍子取りピッチ走法ひたひたと過ぐ

山口 美子

音もなく頬にあたりし銀杏の葉しずむ心を励ましくれぬ
すこやかに八十路越えたる幾人を数えほほえむ静かなる夜に
窓あけてあかき満月に時忘れ願いはまだまだ多き私

大森 萬喜子

つるばらは五月の風に誘われてはらり散りゆく ピンク優しく
北アルプスパノラマロードに咲き盛る桜 こぶしの花 花よ
わきび田の板橋渡り足止めぬ小高き丘の鮎焼く店に

藤本 史代

きのう今日降り籠められて明日また雨漂泊の想いとどむる
忘れむとしたる哀しみ紫陽花に銀鼠色の雨降りそそぐ
身ひとつを守らむとして歩むとき長柄の日傘の限る領域

中西 夏江

駐屯地でありしわが村わが記憶^{まじ}纏わりて敗戦後六十年は過ぎ
敗戦の報ききて哭ける下士官が荒々と軍刀^とを地に刺し居たり
十九歳の夏青草を灼きし真陽 決戦服を棄てて埒^{らち}明く

(一九四五年の夏、由良は寺や民家を宿所とする海軍の駐屯地で
あった。八月十五日の敗戦から今年は六十年である。)

経ヶ岬から潮岬まで (No.5)

四方俊一

五月二日(土)午前六時出発、木津町に向け足軽やかに五条堀川交差点を右手に取り国道一号線を南下する。「京の都」は京都盆地に在り弥生時代の住居跡や古墳時代の土器が出土し生活の営まれていた事を傍証している。「平安遷都」(延暦十三年)(七九四)平安京内の北部中央に位置していたのが「平安宮」、つまり「大内裏」である。東西一・二キロ、南北一・四キロの敷地内には官衙と宮殿が整然と並び、周囲には簡単な築地塀を巡らし周囲に十四門が開かれ、左・右衛門府の官人が詰めてこれを守衛し平安京の出入口に当てられた。その中心の門は南面中央に設けられた「朱雀門」でこの門を出ると幅八五米の朱雀大路が羅城門まで伸びており、この大路に依っ

て平安京が東西両京に分けられていたことは知られる通りである。平安京の造営により、朱雀大路の南端、九条大路の外側に羅城門が、両翼に東寺と西寺が建設され、羅城門には王城鎮護の象徴として鬼跋毘沙門天が安置された。この羅城門は天元三年(九八〇)の暴風で倒壊してからは再建を見なかった。東寺には嵯峨天皇の勅(天皇が下す仰せごと)により「空海」が入寺し、講堂、五重塔を造営した。一方西寺には「守都僧都」が入寺したが天福元年(一二三三)に焼失して以来再興されず、以後永い歳月が流れた。

の「南区」は京都駅から南の部分で商業市街地域と洛南工業地帯とからなっている。その昔、織田信長は入京すると東寺に陣を取り、「禁制」(規定外の行為を官符で禁止)を与え、次いで禁裏(宮中)・社寺などに新領をあてがったが、これにより吉祥院・塔ノ森が禁裏所職に給されることになった。本能寺の変後、明智光秀は豊臣秀吉を討つべく下鳥羽から出陣したが、山崎の合戦で勝利を得た秀吉が、塔ノ森で朝廷の勅使に迎えられたときには、京都市中の入口にあたる上鳥羽の村々は戦火に焼け煙っていたと云う。秀吉は復興の進んでいかなかった東寺に寺領二三〇〇石を寄進し五重塔を建立した。更に秀吉・秀頼二代によって金堂・南大門・講堂が造営され、ここに東寺は蘇ったのである。慶長十六年(一六一一)、角倉了似により高瀬川が開削された。これは二条樵木町を起点として東九条の西南で鴨川と合流

させたもので、更に鴨川から分かれて竹田村を経て伏見に通じる流路が出来、船運の便が新しく開けた。幕末になると西高瀬川の開削が計画された。文政七年(一八二七)の計画は実現しなかったが、文久三年(一八六三)に至って、農業水路をも利用して西高瀬川が開通した。この頃には世情が騒がしく、天誅という名の暗殺は農民にも及び、唐橋村の庄屋惣介が切られ、禁門の変による大火では西九条や東寺回りから消火に出た。第二次長州征伐のため藤沢讃岐守与力一行は東九条村に宿を取ると云うように、農村も平穏では居られなくなった。大政奉還、王政復古と政情が急転し、鳥羽・伏見の戦が起こると薩長軍は幕府軍を追って上鳥羽から下鳥羽へと軍を進め、封建社会は幕を閉じたのである。この区域は、明治期を迎えても大部分の地域が水田・蔬菜栽培地帯で、京都市中へ大量の農作物を移出する

近郊農業の土地であった。

明治三年に西高瀬川の堀割が完成し、輸送の便が良くなり、又、遷都による京都の衰退を回復するために京都府が、観業政策の一環とし農業を積極的に奨励したので、生産は更に高まり蔬菜の宝庫の名称を欲しいままにするようになった。明治二十八年に京都電気鉄道(京都市電)・奈良鉄道(丁R奈良線)が開通し、第二次大戦後に至って洛南工業地帯を形成し今日の発展につながってきた。

交通の量は大変多くなり、道路は排気ガスに満ちてきた、NIT(電電公社)の高層ビルを左手に見て足を進めると鴨川に架かる鳥羽大橋である。橋を渡れば名神高速道路のインターチェンジで高速で行き交う自動車、高速への出入りの車で横断も困難、故、鴨川沿いの堤防の所へ出て迂回して一号線に出ると城南宮の所に出る、ここは伏見区で城南宮は明治維新の時、鳥羽

伏見の戦の発端の場所となった所である。更に足を進めると「赤池交差点」、右は久我橋を渡り向日市へ、左は伏見の中心街、酒処であり、伏見港のあるところである。

「伏見」南は宇治川・巨椋池に接し、東に東山連峰南端の桃山丘陵を背負う。柿本人麿が詠んだように「狩獵場である巨椋池を狩人が「伏見」とした説、宇治川の水が「伏し湛う」所とする説、大和国菅原「伏見」に土師氏の長が住むためと云う説があり、諸説があり定説はない。平安期は伏見郷と称された。国道一号線を更に南下、午前八時、宇治川大橋を渡る。右手には府営の下水処理場・横大路運動公園等がありその先は淀の競馬場である。手前が宇治川で静かに流れる。

さて、この「宇治川」には次の話がある。足利義昭を奉じて入京の途にある織田信長は、交通の要衝である伏見の久我で一

戦を交え市中へ入った。その後、本能寺の変後、明智光秀は豊臣秀吉を迎え撃つべく本陣を下鳥羽に置き淀城に左翼隊、円明寺川沿いに右翼隊を編成した。秀吉に破れた光秀は大亀谷を経て小栗栖に逃れたが、土民一揆(室町時代の手段的反抗運動組織。武士、農民によって形成された、土民一揆、徳政一揆、一向一揆、国一揆などがあつた)の襲撃を受けて最期を遂げた。光秀の首を取ったのは醍醐三三院の坊官で小栗栖に館を構えていた飯田家の一党だったとも云う。文禄三年(一五九四)、秀吉は伏見指

月に、伏見城造管奉行を任命した。淀城の天主と矢倉が移されたが、文禄の役による明使の謁見準備の最中に大地震が襲い甚大な被害を受けてしまった。秀吉は場所を伏見山に移して伏見城の再建に架かり、本丸・天主・舎殿が次々に完成した。築城のために宇治川は巨椋池から分離

され槇島堤が築かれた。淀から三栖までも堤防が築かれ、淀川と宇治川・桂川は直結することになり、伏見が港としての機能を持つことになった。淀川堤には桜や柳が植えられ、世に太閤堤と云われている。さらに宇治川に豊後橋を架け、巨椋池を中継する新大和街道も開かれた。

伏見山頂に防御用の内濠、城西側に外濠、七瀬川を屈折させて総外濠として城下町を囲ませた。こうして、伏見城を中心に東西四キロ・南北六キロにわたる新城下町の建設が進んだ。城下は大名屋敷が林立することになり、全国六〇余州の大名屋敷が城郭を中心に濠内外を問わず広大な土地を占めた。関ヶ原の戦いを挟んで征夷大將軍となった徳川家康は伏見城を全国支配の拠点の一つとしたが二条城完成後、一国一城令の原則のため、元和九年(一六二二)廃城となった。伏見城廃城後城下町の機能を失い、河川交通の要所、港湾

都市としての性格を持った近世都市へと脱皮することになった。そして角倉了似による高瀬川の開削が大きな影響を及ぼした、京都・伏見間が船運で直結され、大阪方面からの通船が直接京都二条城まで到達できるようになった。

高瀬船は多い時期で一五九艘を数えその内一〇艘が伏見船であった。又、参勤交代により西国大名の上下する宿駅町の機能を持つようになり、当地には本陣(大名宿)が四ヶ所おかれた。遠隔諸地方からの諸物資が淀川・高瀬川の船運や鳥羽街道によって持たされたので伏見伝馬所が置かれ大変に栄えた。

明治十二年(一八八〇)郡区町村編制法により伏見区役所が置かれ、この時まで「伏水」と公称された。明治二年(一八九〇)頃は衰退のどん底であったが東海道線の開通、明治二八年(一八九六)の京都電気鉄道(市電)・奈良鉄道(JR)の営

業、明治四三年(一九一〇)の京阪電気鉄道の開通により、旅客の交通は便利になったが物資の陸送・船運は衰え、後に伏見港公園となる。

昭和四年(一九二九)に市制を施行したが、僅か二年後、京都市に合併した。その後は京都市伏見区として発展し戦後、国道一号線整備を始め交通機関、施設の発展、公共施設の設置、マンモス団地の造成による人口増加等ますます発展してきている。

伏見を過ぎると「久御山町」である。時計は午前九時、久御山森交差点で一号线と別れて左折する、八幡宇治線に入り国道二四号線に出る、宇治安田交差点から更に足を進めて山手の二四号線に出て一路木津町に向けて足を運ぶ。この地域は、木津川の氾濫原と北方に展開していた巨椋池の干拓地によって構成され海拔十二米内外の平坦地である。町の中央部を国道一号牧方

バイパスが南北に貫通、国道を挟んで西部は近郊農業地帯、東部は近年建設された工場・住宅地となっている。

古来より合戦、農民一揆、洪水の多い地であった、町域の殆どが低湿地で木津町・巨椋池の氾濫原であるため、総ての集落は自然堤防上、域は盛土上に営まれており、顕著な考古遺跡が少ない所である。東一口・西一口地区は寿永の乱(一一八四)・承久の乱(一二二二)・元弘の乱(一二三三)等の古戦場であった。永和二年(一二三六)南山城に蜂起した土一揆を山名時義の兵が芋洗橋に攻めて以来、十五世紀を迎えるとししば一揆が繰り返され、応仁の乱(一四六七)、山城国一揆(一四八五)に至る。御牧城(西一口城)は、元亀元年(一五七〇)に蜂起した一揆を攻めた三好三人衆のため陥

落した。文禄三年(一五九四)伏見築場を開始した豊臣秀吉は、宇治川を巨椋池北方の伏見城下に迂回させ巨椋池畔の各所に堤防を築いた、その堤防を「太閤堤」と称する。元和九年(一六二三)の淀藩成立後、その村々の多くは淀藩領に組み入れられた。巨椋池は度重なる改修によってその後はその形状を無くした。足は更に南進を続ける、大久保バイパスを通り「山城大橋」に向かって歩く、午前十時三〇分、「JR奈良線」に沿って国道二四号線を南進する。(次号に続く)





由良岳登山道



H 17.4.29

30年前の由良

昭和50年、第12回国勢調査が行われました。
 当時の由良地区の人口は、1,834人でした。
 (平成16年3月31日現在1,374人)

編集後記

昨年の台風二三号の爪痕は消えることはなく、きれいに見える砂浜も流れ着いたゴミや木が埋まっています。

第三九回由良岳登山は台風二三号の被害で心配していましたが、森林組合や観光協会のご協力により登山道を確保し無事終了しました。

転校後初めての登山となった柘田夏丸君、おじいちゃんへのプレゼント一杯水の味は特別おいしかったと思います。

登山の様子が、広報紙みやづ五月号の表紙を飾っています。来年は四十回と記念すべき登山になりますので何かイベントをと話はずみです。

地区対抗駅伝競走大会は市制五十周年を区切りとして終了しました。長年ご活躍いただいた選手の皆様ご苦労さまでした。

(飯澤)

